



CO₂ (二酸化炭素) の排出を減らそう

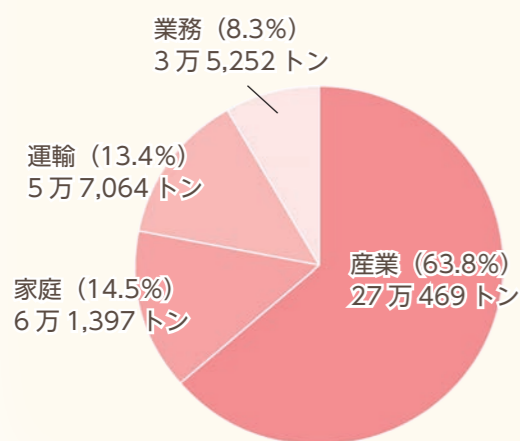


国は、2030年度までのCO₂排出量を、2013年度比で46%削減するという目標を掲げています。

市でも、同等量の削減を目指しており、全体の排出量は現状の約42万4,000トンから約31万6,000トン、1人当たりの排出量は現状の15トンから12トンまで減らそうと取り組んでいます。

例えば、電気自動車への乗り換えや公共交通機関の利用、太陽光パネルで自家発電を行うなどが挙げられます。

市全体の現状 42万4,182トン/年

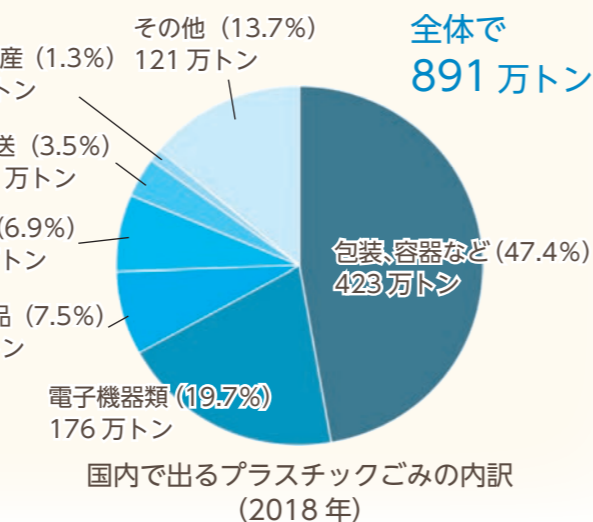


CO₂ 部門別排出量 (2018年)

参考：第2次あわら市環境基本計画、プラスチック循環利用協会

プラスチックごみを削減しよう

プラスチックを作るときや燃やすときに大量のCO₂を排出します。プラスチックごみの削減や使用を控えることで、CO₂排出量の抑制につながります。



国内で出るプラスチックごみの内訳 (2018年)



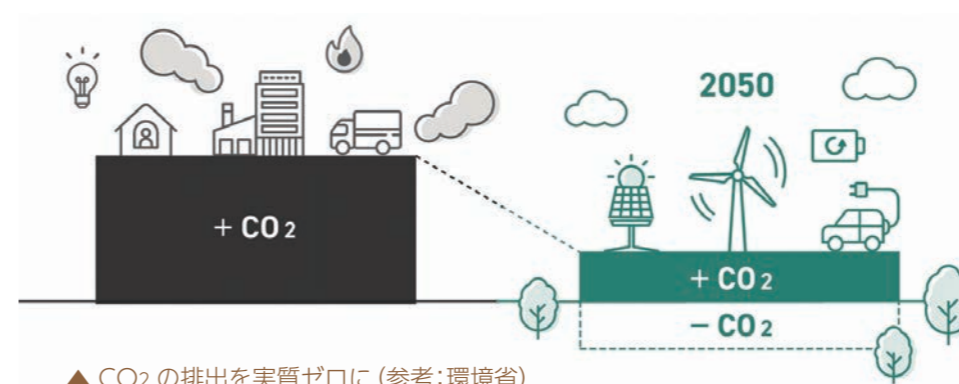
地球の環境を考え、さまざまな国が脱炭素に向けて動いています。一人一人が脱炭素の意識を持ち、行動することが重要です。ちょっとしたことを見直し、地球に優しい生活を送りましょう。

なぜ、今、ゼロカーボンに取り組むのか

世界の平均気温は、産業革命以前と比べ約1°C上昇しました(気象庁ホームページ)。近年、国内外でさまざまな気象災害が発生しています。個々の気象災害と気候変動問題の関係は明確にはされていませんが、今後、豪雨や猛暑のリスクが高まることが予想されています。このことは、農業や水資源、自然生態系、

ゼロカーボンとは

ゼロカーボン(カーボンニュートラル)とは、企業や家庭から排出される二酸化炭素(カーボンは炭素のこと)を削減し、人為的な発生源による排出量と森林などの吸収源による除去量との間を均衡(中立、ニュートラル)とし、合計を実質的にゼロにすることです。



▲ CO₂ の排出を実質ゼロに(参考:環境省)

自然災害、健康、経済活動など、多くの影響が出ると指摘されています。気候変動の原因となっている温室効果ガスは、経済活動や日常生活に伴い排出されて

一緒に取り組もう

では、私たちには一体何ができるのでしょうか。具体的に何から取り組めば良いのでしょうか。今回の特集で紹介いたします。身近にできることから一緒に取り組み、美しいあわら市を、次の世代へ残しましょう。

います。国民一人一人の衣食住や移動といったライフスタイルに起因する温室効果ガスが、国全体の排出量の約6割を占めるという分析もあり、国や自治体、事業者だけの問題ではありません。カーボンニュートラルの実現に向けて、誰もが無関係ではなく、あらゆる主体が取り組む必要があります。将来の世代も安心して暮らせる、持続可能な社会をつくるため、脱炭素社会の実現に向けて考えていきましょう。

ゼロカーボンシティあわら 豊かな環境を未来へ繋ぐ



第2次あわら市環境基本計画を策定

環境への負担を軽減する取り組みを一層強めていくため「第2次あわら市環境基本計画」を策定しました。4つの目標を掲げ、さまざまな取り組みを行っていきます。

- 目標1** 脱炭素化の行動を展開する
- 目標2** 地域循環共生社会をつくる
- 目標3** 地域資源を保全・活用する
- 目標4** パートナーシップによる推進体制をつくる



▲ 詳しくは、こちら

ゼロカーボンシティを宣言

市では、市民や事業者の皆さんと協力し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目標としています。これを達成するため、令和4年4月5日に「あわら市ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

今年度は、事業者間の連携による脱炭素ビジネスモデルの形成や脱炭素へ向けた相談窓口の設置などに取り組んでいきます。



▲ 詳しくは、こちら